

特定非営利活動法人
クリーンオーシャンアンサンブル

事業・会計報告書

2024年度

2024.4.1
/
2025.3.31



Clean Ocean Ensemble

Greeting ごあいさつ

可視化された成果と広がる連携が加速、
未来を変える確かな潮流を、世界と共に次なるステージへ

2024年度は、多くの方々に支えられながらクリーンオーシャンアンサンブル(以下、クリアン)が大きな飛躍をすることができた一年でした。

本年度は、6法人合同の回収装置の実証実験や河川回収装置プロジェクトに挑戦し、海洋ごみ回収装置による初のマイクロプラスチック回収に成功し、累計回収量が2トン(2,000kg)を超える節目を迎えることができました。

また、瀬戸内海で培った知見を活かし、海外(モザンビークやベトナム)でのプロジェクトも始動するなど、活動のフィールドが国際的に広がりました。加えて、海洋ごみMAPアプリの公開により、回収量の見える化と共有が進み、より多くの方々を巻き込んだ取り組みへと発展しています。

組織としては、企業や行政との協働が拡大し、支援パートナーが増加しました。

2024年度にはJICA海外協力隊 帰国隊員社会還元表彰での受賞やイギリスのYouth Business International でのセミファイナリストの選出を果たし、私たちの活動に対する社会的な認知も高まりました。

クルーメンバー(団体メンバー)も増え、体制強化につながっています。こうしたご支援・ご協力のおかげで、ビーチクリーンなどの地域密着の活動から、革新的な技術開発、事業連携、海外展開まで、多面的に事業を展開することができています。

クリアンは調査データを基に技術開発とデータに基づく戦略で海洋ごみ回収の効率を高め、国内外でモデルを共有・拡大していきたいと考えています。河川や海底にまで回収・調査対象を広げ、海洋ごみの発生源対策や包括的な生態系保全にも寄与していく所存です。

引き続き、「海洋ごみゼロの世界」を目指し、一步一步前進してまいりますので、皆さまの温かいご支援とご指導をどうぞよろしくお願い申し上げます。



Contents

1 Greeting (ごあいさつ)

Vision
Mission
Value
Guidelines for action (行動指針)

2 Marine Debris (海洋ごみ事業)

Collection (回収)

- Clean up system (海洋ごみ回収装置)
 - Offshore (海上)
 - Mozambique (モザンビーク)
 - Joint activities (合同回収)
 - River (河川)
- Collaboration (協働)
- Clean up activities (海洋ごみ回収活動)
 - Sorting and weighting (分別と計量)
 - Data processing (データ化)

Marine debris map (海洋ごみMAP)

- Application (海洋ごみMAPアプリ)
- Web map (海洋ごみMAP Web版)
- Certification (回収支援証明書)

Recycling and Upcycling (再資源化)

- Warehouse (倉庫)
- Products (再資源化プロダクト)

Research (調査)

- Scheme (調査スキーム)
- Tools (調査機材)

Result (結果)

- Results of marine debris collection
(海洋ごみ回収実績)
- Results of marine debris recycling
(海洋ごみ再資源化実績)

Publications (論文・コラム)

- Article (学術論文)
- Science columns (コラム)

3 Environmental Education (環境教育事業)

Lectures (講演・講義)

Workshop (ワークショップ)

Exhibition (展示会)

Result (結果)

- Number of people reached (啓発人数)

4 Accounting (会計)

Financial statement (活動計算書)

Balance sheet (貸借対照表)

Asset inventory (財産目録)

5 Awards & Media (受賞&メディア実績)

Award & Recognition (受賞)

Media (メディア実績)

Analytics (アナリティクス)



Vision

海洋ごみゼロの世界

Mission

長期的かつ持続可能な海洋資源利用の実現のため、
革新的な回収技術開発やビジネスモデルの確立、
海洋ごみの新たなビジネスモデルの構築と
海洋ごみ低減に向けた回収システムの構築に貢献する

行動指針

大胆な発想をしよう

まずは自ら手と足を動かして形にしよう

早く失敗し学びを得よう

より多くの人を巻き込んでいこう

正々堂々といこう

仲間を信頼し助け合おう

スピード経営

Gui

Value

Break through

突き抜けていこう！

Work as a Team

チームで進もう！

Respect science, try new technology

科学を尊重して、新しい技術を試していこう！

Hand down great inventions to future generations

偉大なる発明を後世に伝えよう！

Go ENSEMBLE

アンサンブルで行こう！

- 目標設定と細分化を習慣にしよう
- 現場の一次情報を尊重しよう
- 研究と開発の一体化
- 仲間に関心を持とう
- 重たい業務はチームで分担して支え合おう
- 難しい時は遠慮なく仲間に頼ろう
- その業務が得意な人を巻き込んでいこう
- 気づいたことは遠慮なく共有しよう
- 泥臭いことにも積極的に取り組もう
- シェアする文化・リアルタイムの可視化を進めよう
- リスクを恐れず、失敗を奨励しよう
- ルールは守り、都合が悪い時は正直に直ぐ伝えよう
- コミュニケーション・対話を重要視しよう
- 事実とデータに基づき判断しよう
- 優先順位をつけて行動しよう

delines for action

2

Marine Debris

海洋ごみ事業



Collection

— 回収 —

Clean up system 海洋ごみ回収装置



- Offshore (海上)

自然の力を活用する海上ごみ回収装置は、今年度さらなる改良を重ねました。潮流や風の流れを力を利用し、より小さなプラスチック片やマイクロプラスチックも捕捉できるよう技術が進化をしました。

特に、2024年5月～6月に実施した第7回目の実証実験では、観測史上初めて71個の海上マイクロプラスチックを捕獲することに成功しました。この成果は、過去に得られた知見をもと

に実証実験の内容を改善した結果であり、従来捕捉が難しかった浮力の高いごみ（ペットボトル等）や微細なプラスチック片も回収できるようになりました。装置の素材には引き続き不要になった漁網等を再利用し、再現性・低コスト・メンテナンスフリー・環境負荷低減にも配慮しています。

クリーンの海上回収システムは、離島や沖合いのアクセスが難しいエリアでも活用できるように実証実験を繰り返しており、世界中の海で活用できるように改善を続けています。



- Mozambique (モザンビーク)

モザンビークでは、私たちの技術と情熱を海外へと広げる一歩を踏み出しました。現地パートナーと協力し、モザンビークで初めて海洋・河川ごみ回収装置の実証実験を実施しました。

短時間でごみを回収することに成功し、遠く離れた地でも有効なソリューションとなる可能性を示しました。この国際プロジェクトを通じ、技術の共有と現地コミュニティの参加を促しながら、地球規模での海洋ごみ問題解決に向けた連携の礎を築いています。現地では若者や行政とも協力し、ビーチクリーンなど草の根の清掃活動も開始しました。こうした海外展開を通じて、地域に根ざした取り組みと技術支援の両面で海洋ごみ回収量の増加を目指します。



- Joint activities (合同回収)

2024年9月、香川県小豆島の近海で、内海漁業協同組合、日本栄船株式会社、香川大学、有限会社双葉船舶食料品店、cubic-tt[島空撮]、クリアンの計6法人が協力し、4船で海上能動回収の実証実験を行いました。

天候や安全面に考慮しつつ、船舶で回収装置を曳航しながらマイクロプラスチックを含む海洋ごみを回収する実証実験に挑戦しました。

当日、海上に海洋ごみが溜まるホットスポットは確認されませんでした。マイクロプラスチックの回収に成功したことは大きな前進でした。分野や地域を超えた協働により、海洋ごみ対策の新たなモデルを築く端緒となりました。

今後は得られた知見を基に連携を拡大し、より効果的な連携と回収モデル構築を目指していきます。



- River (河川)

川から海へのごみ流出を堰き止めるため、河川での回収装置によるごみ回収実証実験にも取り組みました。今年度は、香川県高松市とモザンビーク国マトラ市の河川にて河川ごみ回収装置の実証実験を実施。流れてくる河川ごみの堰き止めに効果があることが確認できました。

河川での回収強化により、海に流れ出るごみの削減に大きな効果が期待できます。今後は国内の他の河川にも展開し、上流から下流まで一貫した対策を推進していきます。この試みは現地の人々との協働を進めるきっかけにも繋がり、地域の環境意識向上にも貢献していきます。

Collaboration 協働

高松で海底ごみを回収している底引き網漁の漁師と協力し、海底に沈んでいた海洋ごみの見える化の実証実験をしました。

底引き網には魚だけではなくごみも入ります。回収海底ごみの画像・時間・位置情報は貴重なデータであることはわかっていました。今回、回収されたごみデータの一部を海洋ごみMAPに登録し、データとして「見える化」することができ、今後の連携の課題を把握することができました。

海洋ごみMAPのアップデートとともに、引き続き連携を深め、海底ごみの分布や漁業への影響を把握し、新たな対策立案に活かしています。今後も地域と連携し、漁場環境の改善と海洋生態系保全を同時に推進していきます。



Clean up activities

海洋ごみ回収活動

地域に根差したビーチクリーン(海岸清掃)活動も継続して実施しました。2024年度は、小豆島の多尾海岸における毎月1回の定例ビーチクリーンに加え、企業や他地域との協働による特別清掃イベントも開催し、年間で15回の海岸清掃を行いました。

特に9月には日本(小豆島)・ベトナム・モザンビークの3地域で合同ビーチクリーンを実施し、当団体初となる国際同時清掃に挑戦しました。このように活動回数が増えたこともあり、年間の総回収量は約400 kgに達し、累計2,000 kgの海洋ごみ回収に貢献しました。

分別回収したごみはその場で計量・記録し、一部を再資源化しています。また、各回のビーチクリーンには地域住民や企業ボランティアなど多様な方々が参加しており、清掃活動そのものが参加者の環境意識向上やネットワークづくりの場ともなっています。こうした草の根の活動を地道に続けることで、地域社会全体の海洋ごみ削減への機運を高めています。



- Sorting and weighting (分別と計量)

分別回収後の計量・記録作業は、海洋ごみの現状を把握し、回収・再資源化を効率化する上で欠かせないプロセスです。

2024年度も、ビーチクリーンや装置で回収したごみを可能な限り分別・計量し、重量を記録しました。

また、ボランティア参加者にも分別・計量のプロセスを体験してもらい、単に拾うだけでなくごみの中身や量を知る教育の機会にもしています。このようにして得られた詳細なデータは、回収効率や再資源化の効率を上げるための判断材料や、発生抑制、連携促進にも役立てています。



- Data processing (データ化)

新たな取り組みとして、本年度より回収現場でスマホアプリを使って回収ごみの画像・時間・位置情報を記録し、公開する仕組みを導入しました。

これにより、紙のチェックシートを使っていた従来方式よりも効率的にデータ化を促進するために、ビーチクリーンマニュアル公開も進め、紙のチェックシートとITで補完し合うことで回収活動のデータ化を進めています。



詳細マニュアル

背景、事前準備、分別方法、データ整理及び再資源化方法までを網羅したマニュアル。



現場用簡易マニュアル

現場での回収・記録・注意事項を簡潔に整理した持ち運び用マニュアル。



<https://cleanoceanensemble.com/knowledge/research/>よりダウンロードいただけます。

Marine debris map

—— 海洋ごみMAP ——



回収海洋ごみの「見える化・定量化・データ化」を目指し、海洋ごみMAPの取り組みが大きく前進しました。記録用のスマホアプリと回収データを表示するWeb MAPを連動させ、世界中どこからでも海洋ごみ回収成果を共有できるようになりました。

誰もが手軽に回収データを投稿・閲覧できるこの仕組みによ

り、成果の見える化や海洋ごみホットスポットの傾向を把握しやすくなると考えています。

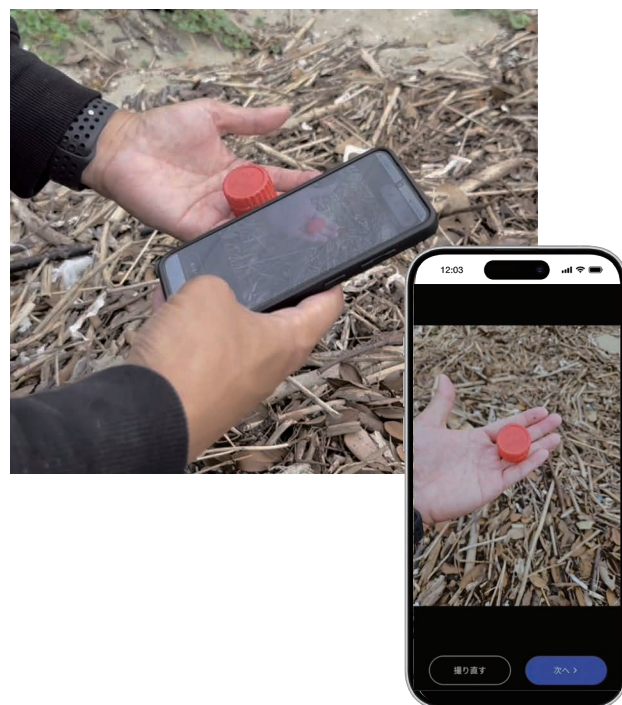
私たちが今まで行ってきた手動による回収の見える化や数値化を今後は誰でもできるような形にするためのツールとして発展させ、地域住民から研究者まで多様な立場の人々がこの地図を活用できるよう開発を進めていきます。

Application 海洋ごみMAPアプリ

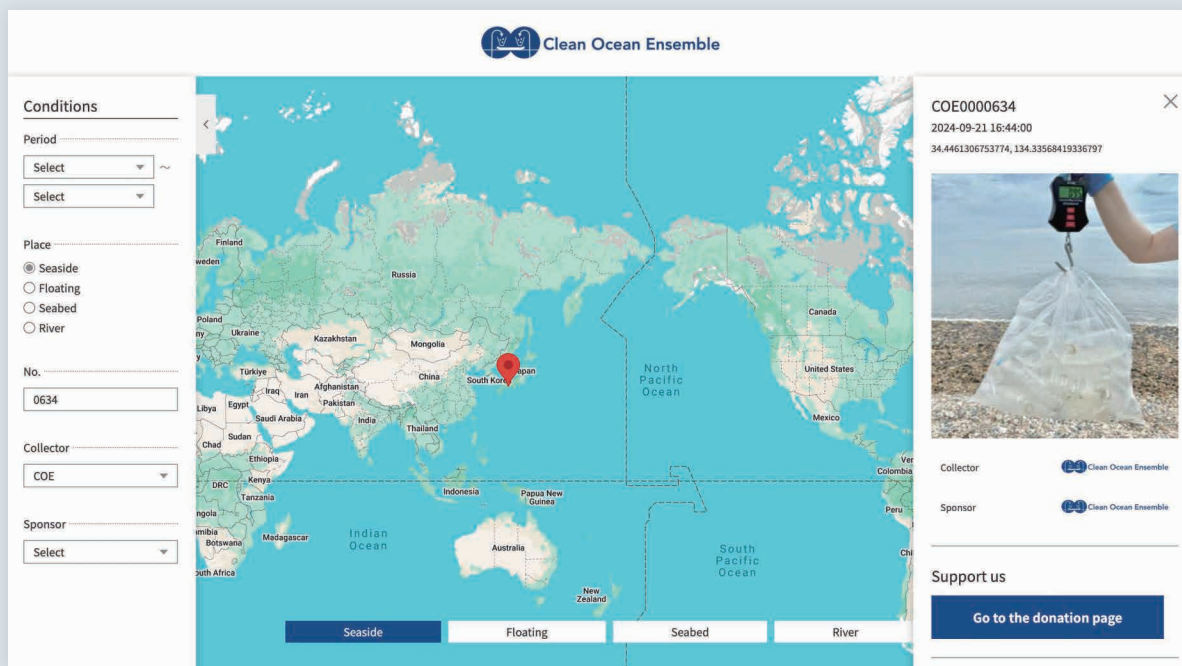
スマートフォンで簡単に回収海洋ごみの写真、位置情報、時間などの情報を記録し、その情報をWeb MAPに共有することができます。回収場所の記録を海辺(海岸等)・漂流(海上等)・海底・河川の4つのカテゴリーに分けていて、世界中のビーチクリーナー、漁業者、ダイバーなど誰もが直感的に使える操作性を目指しています。

2024年度は私たちの回収活動で使いながら改善とアップデートを進めてきました。アプリを通じて集められたデータはクラウド上に蓄積され、地域や国境を越えて共通の分析・活用ができるため、より海洋ごみ回収のインパクトを高めるために活用しています。

現在、日本だけでなく海外の協力者にも利用され始めており、ユーザーが海洋ごみ問題にどれだけ解決に貢献したかを共有することや国際的なネットワーク作りにも役立っています。



Web map 海洋ごみMAP Web版



海洋ごみMAPのWeb版では、集まったデータを地図上で表示しています。地域ごとの回収海洋ごみの量や種類、回収者の清掃活動の成果やスポンサーを誰でも一目で把握でき、課題の分析や優先的な対応策に繋げようとしています。また、Web上で閲覧できることで、世界中の研究者や行政関

係者とも情報を共有し、科学的な知見や政策に生かす土台となることを目指しています。

今後はAIや気象データとの連携を強化し、MAP上で公開することで回収海洋ごみデータ分析を次のステージに進めていきます。

Certification 回収支援証明書

海洋ごみ問題解決に貢献したいと思っていたが、具体的に何もできていなかった企業・団体の声と、回収活動を行う上での資金不足を改善するために、「海洋ごみ回収支援証明書」の発行を開始しました。

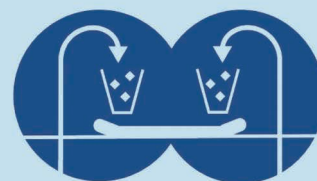
企業が支援したい回収活動を選び、寄付をすることで、支援の結果として、回収活動の成果が記載された証明書として受け取ることができます。証明書に記載されている数値やデータは海洋ごみMAPとの連携を進めており、記載されている回収番号を海洋ごみMAP Web上で検索・確認することができます。これにより支援の見える化、重複防止、透明性の向上を進めています。

今後は、海洋ごみMAPアプリを使用して回収のデータ化を行うユーザーを増やしながら、海洋ごみ問題解決に貢献できる新しい支援・協働の形を増やしていきたいと考えています。

海洋ごみ回収支援証明書

The certificate of marine debris collection support

株式会社 ホテル京阪 殿



Clean Ocean Ensemble

この証書は、下記の通りの海洋ごみ回収活動の支援に繋がったことを証明します。

回収量	: 154.96kg
再資源化量	: 23.51kg
回収回数	: 7回
該当回収番号	: COE00002406, COE00002407, COE00002408, COE00002409, COE00002410, COE00002411, COE00002412,
期間	: 2024/6/1 - 2024/12/21
発行日	: 2025年 2月 17日



Recycling and upcycling

—— 再資源化 ——



回収した海洋ごみを「やっかいもの」から「もう一度使えるもの」へ。回収した海洋ごみを分別し、それぞれのパートナー企業・団体と協力して素材や製品に生まれ変わらせるプロジェクトが進行中です。

今年度は、既存の硬質プラスチック・ガラスビン・鉛鉄に加え

て、新たに釣ルアー・釣竿の再資源パートナー団体と連携を開始しました。今後は既存のパートナーと連携を深めつつ、新しい素材も再資源化できるように効率的な再資源化方法確立を目指します。

Warehouse 倉庫

回収した海洋ごみを一時保管する倉庫を段階的に整え、処理と運搬の効率化を図りました。回収ごみは種類別に仕分け、一時保管し、再資源化可能なものはパートナー企業・団体と連携して再資源化しています。

再資源化可能な海洋ごみは素材として活かし、残りは行政の協力で適正処理を行います。倉庫を利用した一時保管は輸送等のロジスティクス改善に貢献しています。また、マンスリーサポーター等の視察受け入れを行うことで、海洋ごみ問題への啓発拠点としても活躍しています。



Products 再資源化プロダクト

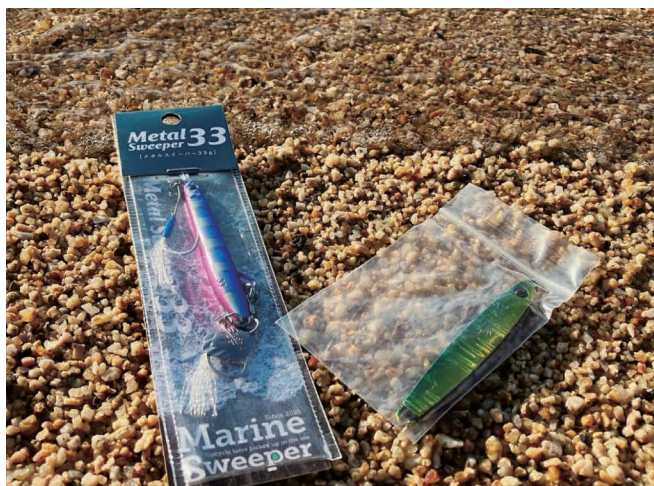
1.Rigid plastic (硬質プラ)



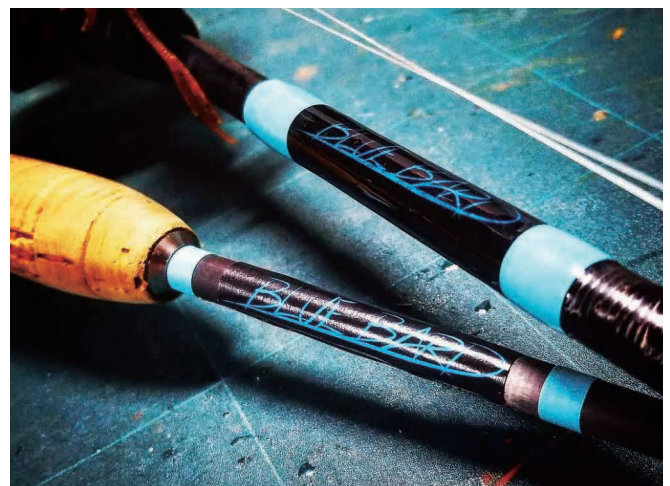
2.Glass/Bottles (ガラス・ビン)



3.Fishing lures (釣ルアー)



4.Fishing rods (釣竿)



5.Iron (鉄)



6.Cans (缶)



Research

調査



私たちは海洋ごみ回収の「価値」を最大化するため、科学的調査に注力しています。

2024年度には「調査チーム」を発足し、海岸および海上で回収したごみやマイクロプラスチックを研究者と共に分析。ごみの分布と発生源の解明を進めています。

さらに、風向や潮流などの環境条件が回収効率に及ぼす影響を解析し、最適な回収方法と装置配置を探究中です。

これらの知見は報告書、論文及びマニュアルとして発信。企業、大学及び市民との連携や意思決定を後押ししています。

Scheme 調査スキーム

持続可能な海洋ごみ回収を実現するため、漁網やブイを再利用した「低コスト回収装置」とデジタルツールを組み合わせた調査スキームを開発しています。専用スマートフォンアプリとWeb地図サービス「海洋ごみMAP」により、回収量・種類・位置情報を記録・蓄積し、大学等と連携してデータを分析・活用します。

調査は「目的設定 → 方法決定 → 現場調査 → 結果考察」のプロセスで進行し、得られた知見は装置の改良、論文・コラム執筆、地域展開可能な標準モデルづくりに反映しています。

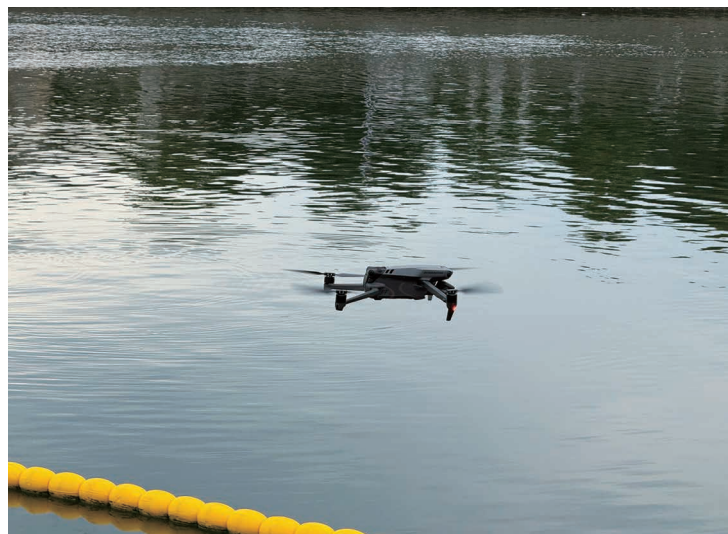
さらに、12種類に分類して定量調査を行う「分別回収型ビーチクリーン」を実施し、データを毎月公開。市民が参加しやすく再現可能な調査体制を整備しました。



Tools 調査機材

2024年度はドローンによる空撮を試行し、海面に漂うごみの分布や潮目を可視化することで、効率的な回収地点の選定に活用しました。さらに、定点カメラ、濾水計、ロガー、各種センサー及び気象データサービスを用いて潮位・潮流・風向を継続的に記録し、データを収集しました。これにより、装置稼働中の環境条件の変化を追跡しやすくなり、回収成果との因果関係分析に役立っています。

今後も現場ニーズに応じた機材を導入し、調査・回収活動の精度と効率の向上を図ります。



Result

結果

Results of marine debris collection

海洋ごみ回収実績

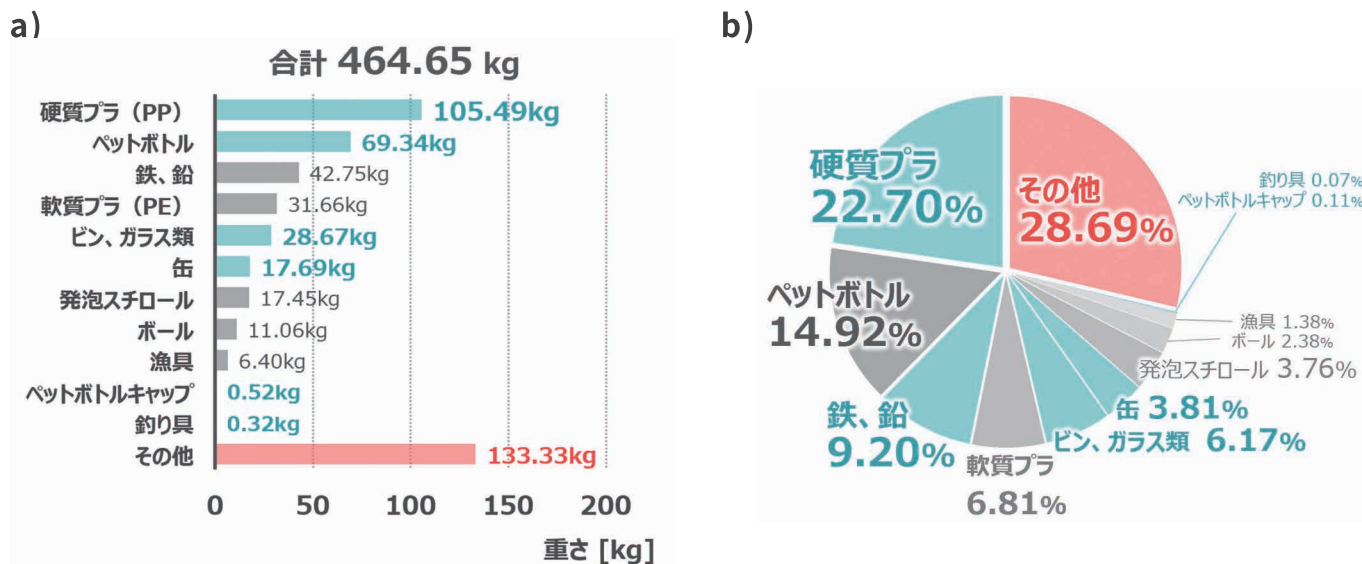


図1. 海洋ごみの種類別回収実績. 期間: 2024年4月1日～2025年3月31日, 緑色: 再資源化実施中のごみ, 灰色: 分別したごみ (将来的に再資源化の可能有), 赤色: 未分別 (再資源化困難なごみ). a) 回収した海洋ごみの種類別重量. b) 回収した海洋ごみの重量分率 (円グラフ).

Results of marine debris recycling

海洋ごみ再資源化実績

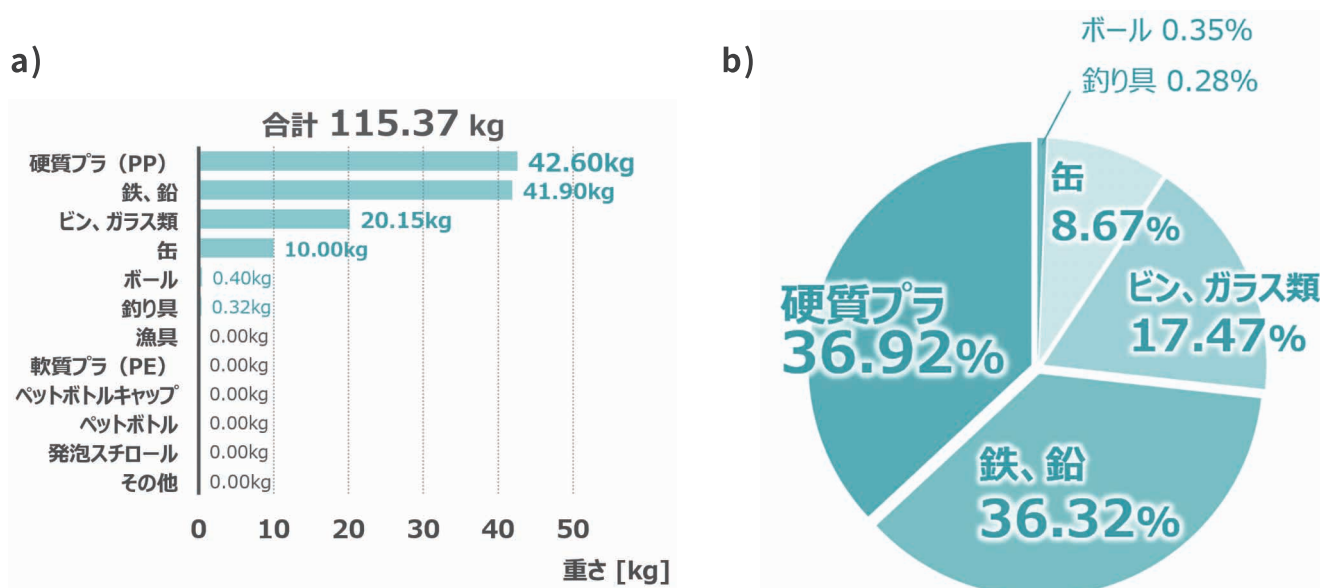


図2. 海洋ごみの種類別再資源化実績. 期間: 2024年4月1日～2025年3月31日. a) 海洋ごみの種類別再資源化重量. b) 海洋ごみの再資源化重量分率 (円グラフ).

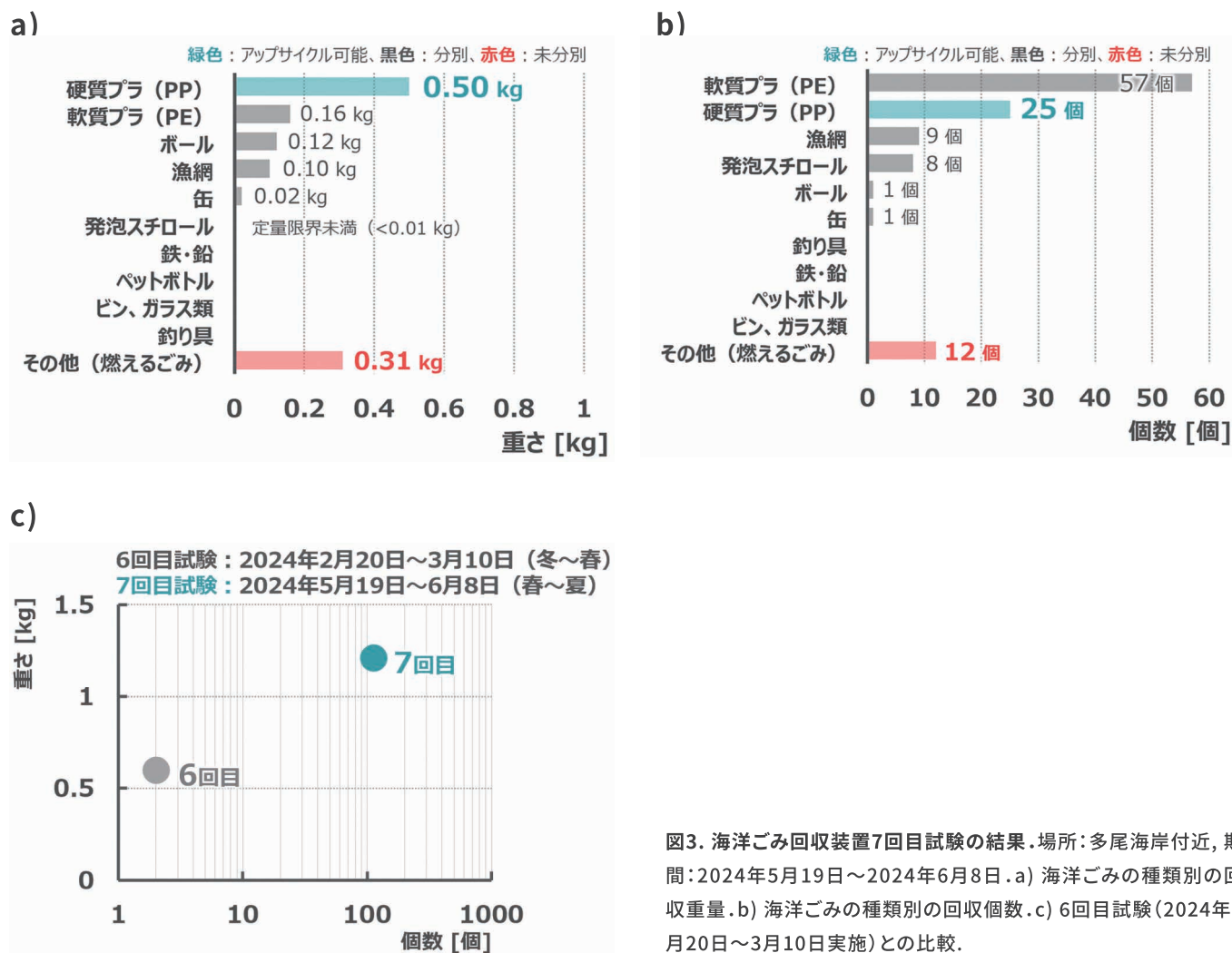
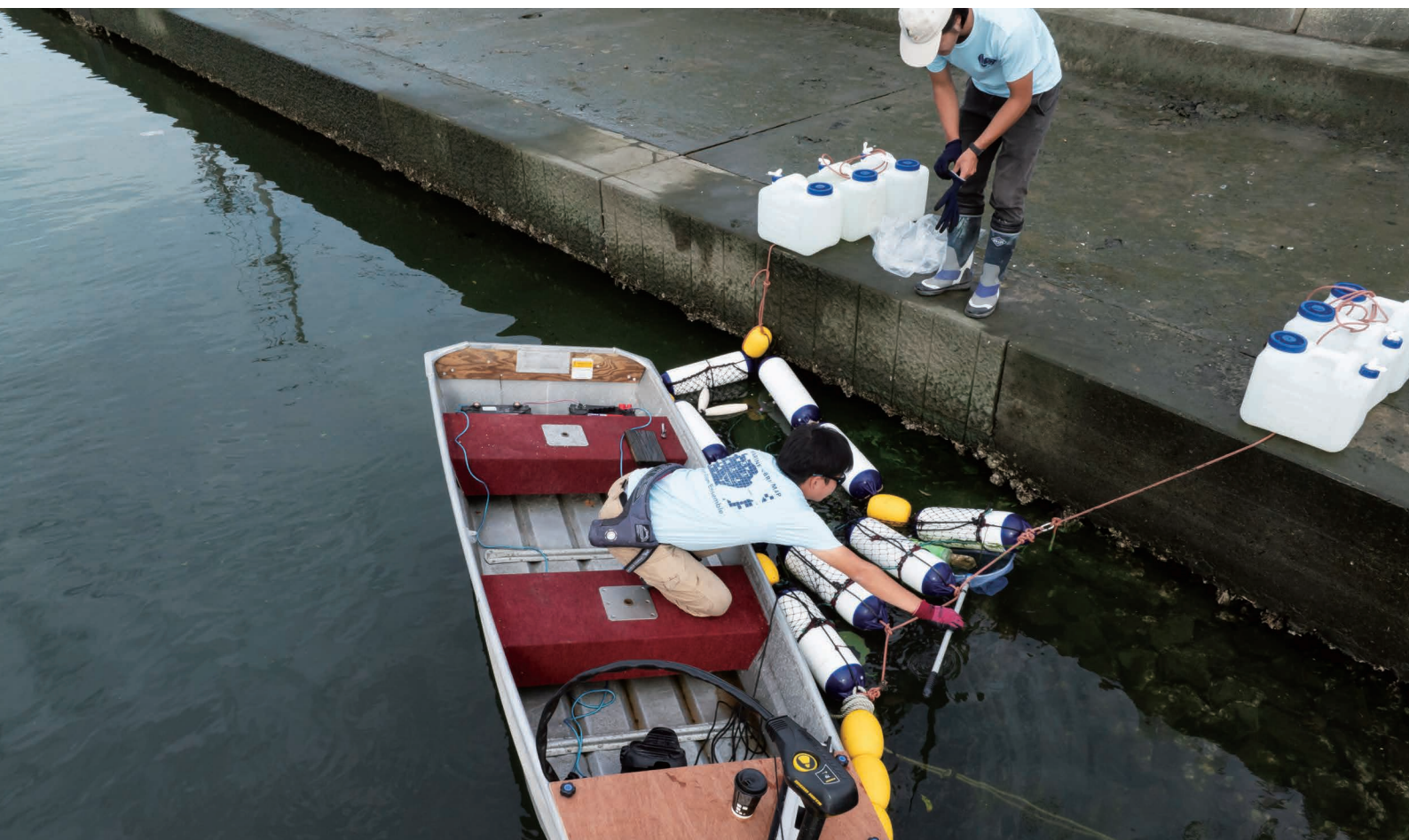


図3. 海洋ごみ回収装置7回目試験の結果. 場所: 多尾海岸付近, 期間: 2024年5月19日～2024年6月8日. a) 海洋ごみの種類別の回収重量. b) 海洋ごみの種類別の回収個数. c) 6回目試験 (2024年2月20日～3月10日実施) との比較.



Publications

—— 論文・コラム ——

Article 学術論文

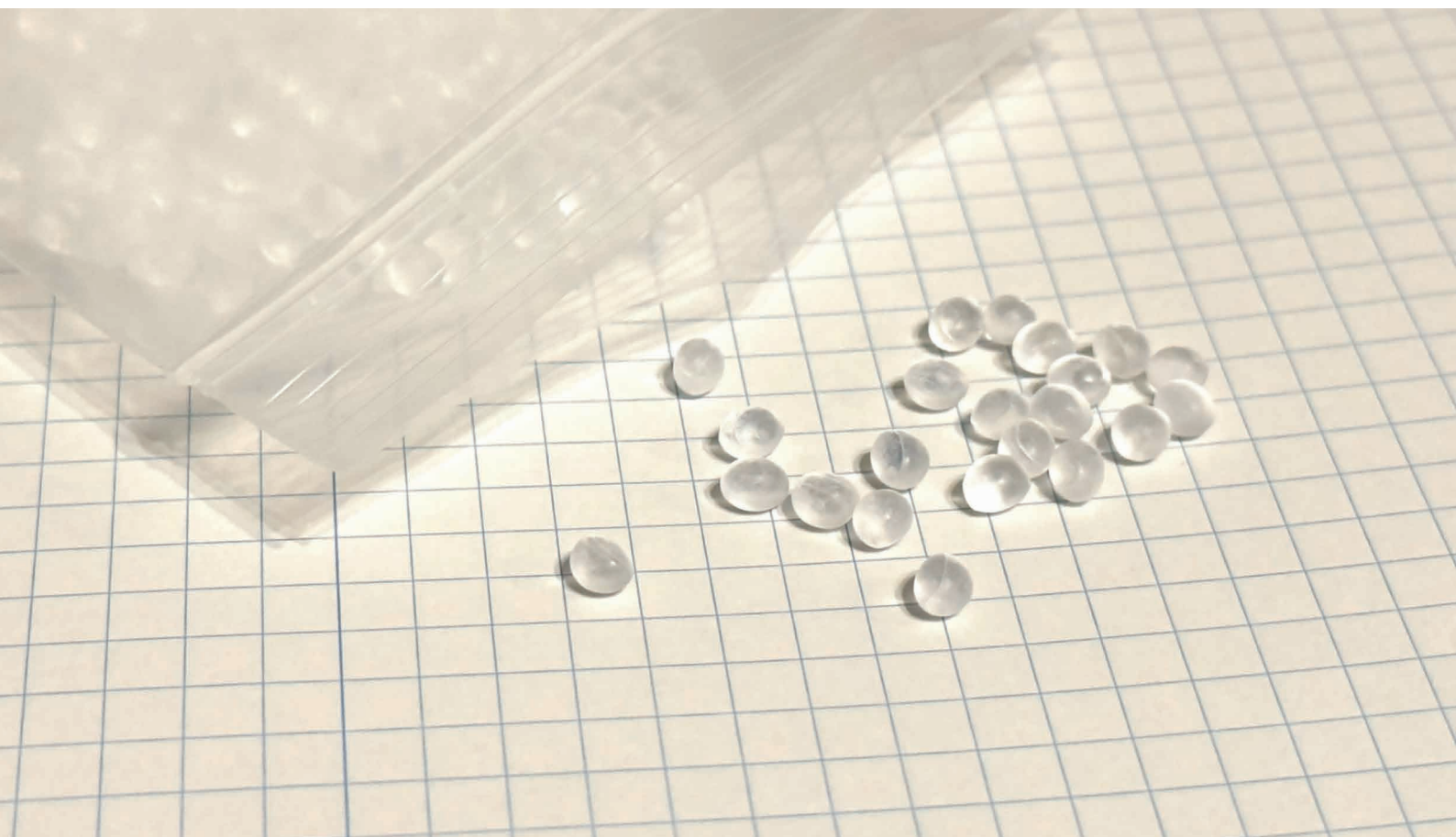
- 1) 江川 裕基, 小島 友佳, 谷本 早紀, 石山 翔午, 中國 正寿. 小豆島を舞台とした海洋ごみ問題解決への取り組み: クリーンオーシャンアンサンブル. 瀬戸内海 **2024**, 87, 45–48.
<https://www.seto.or.jp/upload/publish/sogoshi/87/s87_17.pdf>
(閲覧日: 2025年5月24日)

- 2) Nakakuni, M.; Nishida, M.; Nishibata, R.; Kishimoto, K.; Yamaguchi, H.; Ichimi, K.; Ishizuka, M.; Suenaga, Y.; Tada, K. Convergence Zones of Coastal Waters as Hotspots for Floating Microplastic Accumulation. *Mar. Pollut. Bull.* **2024**, 206, 116691.

<https://doi.org/10.1016/j.marpolbul.2024.116691>

Science Columns コラム

- 1) 溝上 藍, 石山 翔午, 井上 智晶, 中國 正寿. 小さなプラスチックの粒「プラスチックペレット」. クリーンオーシャンアンサンブル(コラム), 2025年3月13日,
<<https://cleanoceanensemble.com/columns/column1/>>
(閲覧日: 2025年5月24日)



3

Environmental Education

環境教育事業



Lectures

—— 講演・講義 ——

海洋ごみ問題を広く伝えるための講演・講義も実施しました。
イベント講演会では、子どもから大人まで多くの方々が熱心に
耳を傾けてくれました。また、企業向けの講演会も行い、ビジネス
パーソンにも海洋環境の現状と解決策を共有しました。

こうした教育・啓発活動を通じて、一人でも多くの人に海洋ごみ
問題を知ってもらい、行動を起こすきっかけを提供しています。



Workshop

—— ワークショップ ——

ワークショップでは、島外の方々や地域住民が実際に海洋ごみ
問題に触れられるようなプログラムを行いました。

ビーチクリーンで回収した硬質プラを再資源化するまでの工程
の体験を通して、子どもから大人まで参加しやすい内容にしまし
た。体験を通じて海洋環境への関心を深めるだけでなく、自分ご
ととして考えるきっかけを提供し、行動への一歩を促しています。



Exhibition

—— 展示会 ——

今年度はイベントでの特設の展示会を通じて、海洋ゴミ問題の実例と解決策を多くの方に知っていただく機会を創出しました。

ビーチクリーンで回収した海洋ゴミ(プラスチック・ビン)、再資源化された製品などを展示し、回収装置や海洋ゴミMAPも映像やパネルで解説しました。



Result

結果

Number of people reached 啓発人数

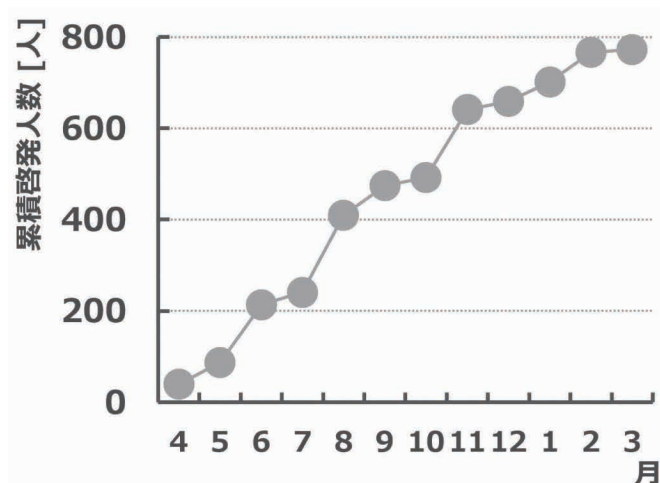


図4. 2024年度の啓発人数. 期間: 2024年4月1日～2025年3月31日, 実施内容: 分別回収型ビーチクリーン, 現場視察, 実証実験, ビッチ・登壇, 講義・研修及びワークショップ. 累積啓発人数.



4

Accounting

会計



活動計算書			
		[税込] (単位: 円)	
特定非営利活動法人クリーンオーシャンアンサンブル		2024年 4月 1日 至 2025年 3月31日	
【経常収益】			
【受取会費】			
正会員受取会費		5,000	
【受取寄付金】			
受取寄付金		5,990,696	
【受取助成金等】			
受取助成金		6,454,257	
【事業収益】			
海洋ごみ事業		260,940	
環境教育事業		160,600	
【その他収益】			
受取利息		1,014	
経常収益計			12,872,507
【経常費用】			
【事業費】			
(人件費)			
役員 報酬(事業)	2,000,000		
法定福利費(事業)	267,572		
人件費計	2,267,572		
(その他経費)			
業務委託費(事業)	5,070,460		
諸謝金(事業)	688,265		
印刷製本費(事業)	24,792		
会議費(事業)	9,600		
旅費交通費(事業)	1,191,150		
車両費(事業)	307,590		
通信運搬費(事業)	97,740		
消耗品費(事業)	1,993,996		
修繕費(事業)	105,961		
水道光熱費(事業)	5,148		
地代家賃(事業)	120,000		
賃借料(事業)	47,895		
減価償却費(事業)	88,333		
保険料(事業)	169,241		
諸会費(事業)	45,250		
租税公課(事業)	18,230		
広告宣伝費(事業)	17,913		
支払手数料(事業)	346,520		
その他経費計	10,348,084		
事業費計		12,615,656	
【管理費】			
(人件費)			
役員報酬	400,000		
法定福利費	84,628		
人件費計	484,628		
(その他経費)			
旅費交通費	35,341		
通信運搬費	36,762		
消耗品費	34,435		
水道光熱費	5,236		
業務委託費	855,580		
租税公課	3,070		
支払手数料	332,565		
その他経費計	1,302,989		
管理費計		1,787,617	
経常費用計			14,403,273
当期経常増減額			△ 1,530,766
【経常外収益】			
経常外収益計			0
【経常外費用】			
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			△ 1,530,766
当期正味財産増減額			△ 1,530,766
前期繰越正味財産額			1,674,881
次期繰越正味財産額			144,115

貸借対照表

特定非営利活動法人クリーンオーシャンアンサブル
全事業所

[税込] (単位 : 円)
2025年 3月31日 現在

《資産の部》			
【流動資産】			
(現金・預金)			
現金	22,693		
普通預金	1,818,432		
現金・預金計	1,841,125		
(売上債権)			
未収金	49,590		
売上債権計	49,590		
(その他流動資産)			
前払費用	30,000		
その他流動資産計	30,000		
流動資産合計		1,920,715	
【固定資産】			
(有形固定資産)			
車両運搬具	738,048		
什器備品	411,919		
工具器具備品	552,080		
減価償却累計額	△ 1,157,626		
有形固定資産計	544,421		
(投資その他の資産)			
出資金	50,000		
敷金	30,000		
投資その他の資産計	80,000		
固定資産合計		624,421	
資産合計			2,545,136
《負債の部》			
【流動負債】			
未払金	780,026		
前受金	1,600,000		
預り金	11,815		
仮受金	9,180		
流動負債合計		2,401,021	
負債合計			2,401,021
《正味財産の部》			
前期繰越正味財産	1,674,881		
当期正味財産増減額	△ 1,530,766		
正味財産合計			144,115
負債及び正味財産合計			2,545,136

財 産 目 録		[税込] (単位：円)	
特定非営利活動法人クリーンオーシャンアンサンブル 全事業所		2025年 3月31日 現在	
		《資産の部》	
【流動資産】			
(現金・預金)			
現金	22,693		
その他補助	(22,693)		
普通預金	1,818,432		
PayPay銀行	(1,769,000)		
住信SBIネット銀行	(49,344)		
PayForex	(88)		
現金・預金計	1,841,125		
(売上債権)			
未収金	49,590		
その他補助	(49,590)		
売上債権計	49,590		
(その他流動資産)			
前払費用	30,000		
その他流動資産計	30,000		
流動資産合計		1,920,715	
【固定資産】			
(有形固定資産)			
車両運搬具	738,048		
軽自動車	(414,860)		
小型船舶和船	(323,188)		
什器備品	411,919		
工具器具備品	552,080		
水中ドローン	(552,080)		
減価償却累計額	△ 1,157,626		
軽自動車	(△ 414,859)		
小型船舶和船	(△ 323,187)		
水中ドローン	(△ 419,580)		
有形固定資産計	544,421		
(投資その他の資産)			
出資金	50,000		
敷金	30,000		
投資その他の資産計	80,000		
固定資産合計		624,421	
資産合計			2,545,136
		《負債の部》	
【流動負債】			
未払金	780,026		
前受金	1,600,000		
預り金	11,815		
報酬源泉税	(505)		
給与源泉税	(11,310)		
仮受金	9,180		
流動負債合計		2,401,021	
負債合計			2,401,021
正味財産			144,115

5

Awards & Media

受賞&メディア実績



Awards & Recognition

受賞

第2回 JICA海外協力隊 帰国隊員社会還元表彰「ボランティア活動を通じた社会還元実践賞」受賞(2024年4月)

YBI グローバルユース・アントレプレナーサミット 2024 セミファイナリスト選出(2024年4月)

WORLD CLEANUP DAY 2024 インフルエンス賞 受賞(2024年11月)

香川県主催「第2回かがわプラスチック・スマート大賞」にてプラスチックスマート優秀賞 受賞(2025年2月)

Media

メディア実績

J-WAVEラジオ(2024年4月) - J-WAVE「TOKYO UNITED」のコーナー「Eyes on the Future」

Medium(2024年6月) - Medium英語インタビュー記事
「TRAILBLAZER: Yuki Egawa, Founder and CEO, Clean Ocean Ensemble」

JICA青年海外協力隊 事務局(2024年8月) - JICAボランティア事務局公式YouTubeチャンネルインタビュー動画
「海洋ごみゼロの世界を目指して」

JICA BLUE 起業支援サイト(2024年8月) - JICAの起業支援プロジェクト「BLUE」、ストーリー記事
「海洋ごみゼロの世界を目指して」

Marine Pollution Bulletin(2024年9月) - 国際学術誌「Marine Pollution Bulletin」9月号、
クリーンオーシャンアンサンブルがフィールドデータ提供をした
香川大学の海洋プラスチックに関する研究論文

ローカルSDGsアクションフォーラム(2024年9月) - SDGs地域啓発サイトの取材記事にて、
団体紹介と代表へのインタビューが掲載

JICA海外協力隊 Web特集(2024年9月) - JICA海外協力隊の情報誌「クロスロード」9月号の特集記事に、
代表インタビューが掲載

読売新聞(2025年1月) - 地域面特集「海洋ごみゼロ 挑む」で紹介

Analytics

—— アナリティクス ——

2024年度は、広報・情報発信力も向上しました。

公式ホームページの年間PV数は約68,400PVに達し、SNS総フォロワー数も前年の約3,400名から約3,900名へ増加しています。

プレスリリース発信件数は37件となり、主要メディアで取り上げられる機会も増えました。

ホームページ年間PV数

68,400

(前年40,500から27,900増加)

SNS総フォロワー数

約3,900名

(前年末から約500名増加)

プレスリリース発信数

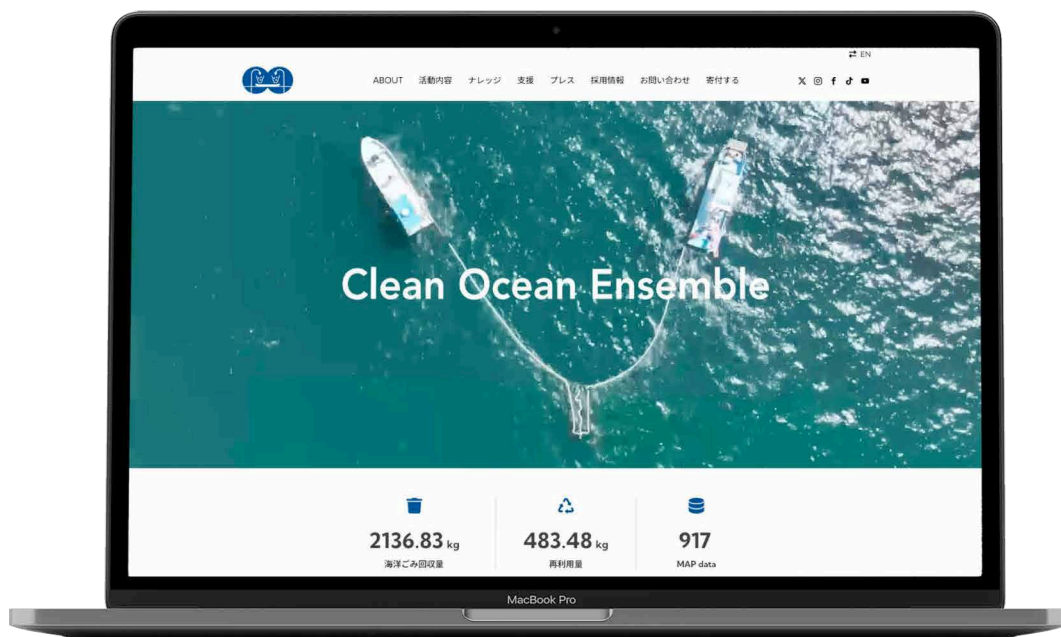
37件

(前年7件から30件増加)

プレスリリースPV数

27,654

(前年18,082から9,572増加)



Merci beaucoup



ご支援、ご協力をお願いいたします

サポーター

月1000円～の寄付で海洋ごみ問題解決への挑戦を支援するマンスリーサポーターへのご参加をお願いいたします！



各種SNS等

フォローといいねで海洋ごみ問題解決への挑戦を応援する広報サポーターへのご参加をお願いいたします！



特定非営利活動法人

クリーンオーシャンアンサンブル

<https://cleanoceanensemble.com>

〒761-4425 香川県小豆郡小豆島町坂手甲986番地

Tel: 070-8360-9815

Mail: info@cleanoceanensemble.com